

鶴城中だより

文責 巧
校長 津 船
No.11

やるからには全力で

挑戦(チャレンジ)すること

今年の生徒会の目標が挑戦(チャレンジ)に決まった。本校は小規模校であるからこそ、一人一人の力が大切であり、最大限に発揮されなければならない。

本誌第四号にて、「再び返らぬ時なればこのひとときに命燃やさん」という五霊中の校是を紹介した。

一年にも季節があり、その節目があるように、人の一生にもいくつかの節目があります。入学式や卒業式、成人式や結婚式、還暦や喜寿米寿などなど。奈良く平安時代、男子は15歳ぐらいになると、大人になった証として、着物や髪型を大人の物に変え、冠をかぶる元服という儀式をしていたよう

人生の節目

一年にも季節があり、その節目があるように、人の一生にもいくつかの節目があります。入学式や卒業式、成人式や結婚式、還暦や喜寿米寿などなど。奈良く平安時代、男子は15歳ぐらいになると、大人になった証として、着物や髪型を大人の物に変え、冠をかぶる元服という儀式をしていたよう

です。室町以降は、武士の世の中となり、前髪を剃る形式へと簡略化されます。この元服の儀を現代風にしたのが立志式です。もちろん、着物や髪型を変えることはしませんが、男子だけでなく、女子も参加します。現在では、法律(刑法)においても、14歳を境に大きく扱いが変わってきます。大人としての扱いになるのです。そこで、大人へ仲間入りし、努力を惜しむことなく

家庭で、授業の復習や予習をする人としいない人。体育や部活動の時、一生懸命にする人としいない人。睡眠時間を十分に取ろうとする人とゲーム等に没頭する人。朝食を取る人取らない人。栄養のバランスを考えない人。事をする人しない人。将来のことを考え、今やるべき事はどんなことであるのか考えれば直ぐに答えが出るのである。

今年の生徒会は、「挑戦(チャレンジ)するからには全力で」を目標に掲げた。鶴城中の生徒に必要な事は、常に前向きにチャレンジしていく精神で有り、全力で頑張ろうとする行動力である考える。生徒会長をはじめ執行部だけが頑張るのではなく、絶対に戻ることのないこの一瞬に、みんなの力を集結させることが大切。「僕の前に道はない。僕の後ろに道はできる」と高村光太郎は書いた。未来は自分でつくるのである。今というこの瞬間も、振り向けば過去となり、歩んできた道と違ってゆく。過去には、絶対に戻れない。だからこそ、やるからには全力で……。



大きく羽ばたく決意を持ってもらうために、二月三日、本校の二年生は、彦岳山頂にて立志式を行いました。途中の急坂に悪戦苦闘



しながらも、何とか全員山頂に到達。一人一人が私の漢字一字に込めた決意を発表しました。その後、自ら作ったおにぎりを食べ、担任扮する鬼に向かって節分の豆まきしました。

さて、立志式で良く取り上げられる幕末の志士に橋本左内という人がいます。15歳で大きく5つの決意をし、「啓発録」という本にまとめました。その5つの決意とは、
① 稚心を去る
② 気を振るう
③ 志を立てる
④ 学に勉める
⑤ 交友を選ぶ ことです。



このことにより、左内は西郷隆盛をはじめ多くの人に認められる存在になったようです。二年生の更なる頑張りに期待します。

挑戦 やるからには全力で

今年の生徒会の目標は「挑戦するからには全力で」になりました。稗島生徒会長が、2日の生徒集会で、設定理由を説明しました。今の鶴城中は、目標を持つていても直ぐにあきらめてしまいう人や、自分から積極的に取り組もうとする意識が低い人が多いと感じています。(一部略)

今はその良くて、苦勞や努力から逃げていくと、将来の夢に向かって進んでいこうとしたとき、きつと必要以上に苦しんだり後悔したりすることになると思います。授業でも部活動でも友達との関係づくりでも、自分から進んで取り組み、苦しくてもあきらめずにやり抜くことが今の私たちにとって大切なことではないでしょうか。そこで、鶴城中の生徒一人一人が、何事にも自らチャレンジして欲しいという願いを込めました。大変そうに見えても、面倒に見えても、一歩踏み出して挑戦することで見えるものや得られるものはたくさんあります。生徒会の目標の通り、全校みんなで絶えず目の前のことに挑戦し続けられるそんな一年にしましょう。(一部略)